

# 下関市立豊北歴史民俗資料館 太翔館

## ＝開館1周年記念シンポジウム「技の伝承」記録集＝

### 【例言】

本記録集は、平成24年11月17日（土）に滝部活動拠点施設太陽館で開催した下関市立豊北歴史民俗資料館太翔館（以下、太翔館）の開館1周年記念シンポジウムの記録である。

本シンポジウムは、太翔館の開館1周年記念特別展「器一形と技一」に合わせて開催したものである。下関市豊北地域には江戸時代以降14箇所もの陶磁器窯が存在し、なかには「北浦焼」と称され中国や韓国に輸出するまでに隆盛した窯があることは当地域の大きな特色の一つとなっている。そこで、本シンポジウムでは、地窯にまつわる話やその技術について、関係する研究者及び現在「豊北焼」としてその復元に携わっている陶芸作家を招聘し、無形の技術や郷土遺産について考える目的で開催した。

### 【当日スケジュール】

受付	10:00～	
開会あいさつ	10:30～10:35	土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム館長 藤野 洋
主旨説明	10:35～10:40	太翔館館長 吉留 徹
基調講演	10:40～12:00	梅光学院大学教授 渡辺一雄 「山口県の窯業生産－その技術の系統－」 －昼食－
報告1	13:00～13:30	山口大学埋蔵文化財資料館助教 田畑直彦 「現在の大甕づくりと技術伝承－考古学の視点から－」
報告2	13:30～14:00	下関市烏山民俗資料館館長 河田 聡 「近世陶磁器窯の生産と流通－統計資料にみる山口県の陶磁器生産－」
報告3	14:00～14:30	一佳窯 宮田佳典 「「豊北焼」の技術について」
休憩	14:30～14:40	
討論会	14:40～15:30	パネリスト 講演および報告者 コーディネーター 太翔館館長 吉留 徹 太翔館学芸員 佐々田麻未
閉会あいさつ	15:30～15:35	土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム名誉館長 松下孝幸

※本稿は、平成24年11月17日（土）に開催した太翔館開館1周年記念シンポジウムの録音テープを文章化したものである。各先生方にはご多忙の中、本記録集の公開をご快諾いただき原稿の加筆・修正をお願いした。心より感謝申し上げる次第である。なお、編集にあたってのテープ起こしは太翔館の佐々田麻美がおこなった。

### 【開会あいさつ】

藤野 皆さんおはようございます。本日は大変お寒い中、また遠くから太翔館開館一周年記念シンポジウムにお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。



藤野 洋

太翔館は、昨年今日、11月17日に、下関市立豊北歴史民俗資料館「太翔館」として新たにリニューアルオープンして、今日で一年を迎えるわけでございます。

皆様ご存知のとおり、太翔館は大正13年に同地に建設されました「旧滝部小学校」であります。今現在約90年を迎えようとしております。その間、修繕を繰り返しまして、昭和55年度から資料館として利活用しております。そして、平成19年から23年にかけて保存修理工事を行いまして、この建物を大正時代に復原しております。現在も、この姿を皆さんが見れるということも、地域の皆さんのおかげであるとともに、資料館の関係者の皆様のご尽力だと思っております。

太翔館はこれからも地域の歴史文化の継承地点としまして、また地域の交流の場といたしまして、企画展、講座等様々な活動をすすめてまいりたいと思っております。ご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

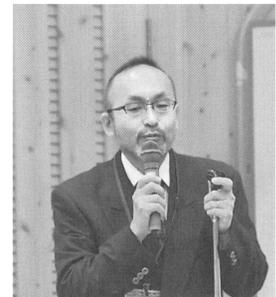
この後吉留館長より、シンポジウムの趣旨説明があります。現在開催しております「器一形と技一」と題しました特別展と併せまして、焼物をメインに、今日は多くの講演者の方もお迎えしております。当日来場の皆様方にも、大変やきものに興味を持ってる方も沢山いらっしゃると思います。今日はめったにない機会でござ

いますので、何かいいところを吸収されまして、今後に活かしていただければと思います。

今日はご来場ありがとうございます。今後ともよろしくお願いたします。今日はゆっくり楽しんで頂ければと思います。ありがとうございます。

### 【主旨説明】

吉留 おはようございます。足元の悪い中どうもありがとうございます。太翔館館長をつとめさせていただきます吉留と申します。本日はよろしくお願



吉留 徹

します。開催趣旨ということなんですけども、みなさんがたがお持ちの、レジュメのご挨拶のほうで少し触れてましたが、先ほど館長が話していただきましたように、資料館ができて今日一周年を迎えます。実は今日は太翔館、いわゆる旧滝部小学校を寄贈していただきました、中山太一氏の誕生日なわけですね。それで、今も悩んでいる最中なんですけども、この建物の中で何をやっていったらいいのか、新しく大正時代の小学校を復元した建物で、何をそこから発信していこうか、非常に悩んでいたときに、萩焼の作家で、今日パネラーでお話していただきます宮田さんが、「豊北焼」というやきものを復元されているという話を聞きました。それからいろいろお話をうかがっていくなかで、非常におもしろいと思ったわけです。実は豊北町には、江戸時代から大正、明治、あるいは昭和までにかけて、14ヶ所くらいの窯跡があったというふうにいわれているんですが、江戸、幕末から、大体大正ぐらいまでにはほとんどの窯がなくなってしまったといわれています。これ

が何でなくなってしまったのか、それから、そういう技術を持っている人たちがどういうふう  
にその技術を伝えてきたかとかというのに非常に  
関心をもちまして、今回シンポジウムのテーマ  
になっておりますように、技の伝承ですね。  
どうやってそういう技が伝わってきたのか、それが  
どういう地域から入ってきた、あるいはここから  
その外に出て行ったのか、そういうことを考えて  
いきたいというふうに考えております。

で、僕も専門ではないので、なかなかやきもの  
というのがわからないので、今日はまず「山口  
県域の窯業生産－その技術の系統－」という  
ことで、山口県内の生産遺跡を調査されてい  
らっしゃいます梅光大学の渡辺先生に基調講演  
をいただきます。そのあと考古学の視点から、  
現在大甕づくりをされている堀越焼ですね、そ  
の中でみられる古墳時代から続いているような  
その技術伝承というようなことについてのお話  
を、山口大学の埋蔵文化財資料館のほうにい  
らっしゃいます、田畑先生からいただきたいと  
いうふうに思っております。それから、「近代  
陶磁器の生産と流通－統計にみる山口県の陶磁  
器生産－」ということで、人類学ミュージアム  
の職員でもありまして、烏山民俗資料館館長の  
河田先生のほうからお話をさせていただきたい  
思っております。それから最後に、「「豊北焼」  
の技術について」ということで、一佳窯の宮田  
先生のほうからお話をさせていただきます。

午前中は、渡辺先生の基調講演をいただきま  
して、午後から3人のパネラーの方による報告  
をしていただきます。そして最後に、みなさん  
で集まって討論という形にしていきたいと思  
います。

それで、お弁当を頼まれてらっしゃる方は  
12時ぐらいに、基調講演が終わったあとに受

付のほうでお弁当券と引き換えをしますので、  
間違われないようにしてください。食事はこ  
こでしてください。それからレジュメのほう  
に、質問用紙、それからアンケート用紙が入  
っております。あるいはレジュメのほうで番号等  
不備がある場合はお知らせいただきたいと思  
いますけれども、質問用紙とアンケート用紙があ  
りますので、この先生に聞きたいというような  
ことがあれば、ぜひ質問を書いていただきたい  
というふうに思っております。受付で質問用紙  
を受けますし、あと会場にスタッフがいますの  
で、お声がけをしてお渡しいただければありが  
たいなと思います。

ほぼ一日かかるような非常に長時間ですが、  
最後にお時間がある方は、討論が終わったあと  
に「特別展示解説会」ですね。特別展の「器－  
形と技－」で、今回の企画制作を一緒にやっ  
ていただきました、学芸の佐々田のほうからお話  
をしていただきますので、雨の降る中で大変申  
し訳ないんですが、ぜひ資料館のほうに行っ  
ていただいていただければありがたいと思  
います。

なかなか至らぬことも多いと思いますが、こ  
のお時間みなさんにご協力いただきたいと思  
います。本日はよろしく願いいたします。簡  
単ではありますが、開催趣旨にあわせて説明さ  
せていただきました。

---

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

## 研究紀要

第8号

発行年月日 2013年3月  
編集・発行 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム  
〒759-6121 山口県下関市豊北町神田上891-8  
TEL 083-788-1841・1842  
FAX 083-788-1843  
印刷 株式会社吉村印刷  
〒750-0004 山口県下関市中之町5-9  
TEL 083-232-1190  
FAX 083-232-1189

---